



須川 展也

(ソプラノ・サクソフォン)

Nobuya SUGAWA, Soprano Sax

東京藝術大学卒業。第51回日本音楽コンクール、第1回日本管打楽器コンクール最高位受賞。02年NHK連続テレビ小説「さくら」テーマ演奏。名だたる作曲家への委嘱曲がSaxの新たな主要レパートリーとして国際的に広まっている。

89-2010年まで東京佼成ウインドオーケストラのコンマス、07-2020年までヤマハ吹奏楽団の常任指揮者を務める。最新CDは20年秋発売の「パッパ・シーケンス」。東京藝大招聘教授、京都市立芸術大学客員教授。

〈使用楽器〉

ヤマハYAMAHA YSS-875EXG



彦坂 眞一郎

(アルト・サクソフォン)

Shin-ichiro HIKOSAKA, Alto Sax

東京藝術大学大学院修了。安宅賞受賞。CBSソニー「ザ・ニューアーティスト・オーディション'88」においてFM東京賞、クリスティン・リード賞受賞。99年東京オペラシティリサイタルシリーズ「B→C」出演。上野学園大学教授、東京藝術大学非常勤講師。

本多俊之主催の室内楽ユニット「SMILE!」に参加。これまでに新井靖志とのデュオによる「6つのカプリス〜2本のサクソフォンのための作品集〜」(マスター)、ソロCD「明日の方へ」(フロレスタン)をリリース。

〈使用楽器〉

セルマーシリーズII GP



神保 佳祐

(テナー・サクソフォン)

Keisuke JIMBO, Tenor Saxophone

群馬県出身。昭和音楽大学卒業、同大学音楽専攻科修了。東京芸術劇場による演奏家育成プロジェクト「芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー」に第一期生として在籍し研鑽を積む。

現在はアンサンブルの分野での活動を中心に在京のオーケストラ、吹奏楽の公演や録音に数多く出演している。「CIRCLE A SAX」、"Saxaccord"メンバー。サクソフォンを大津立史、新井靖志、有村純親、林田祐和の各氏に師事。昭和音楽大学・同短期大学非常勤講師。

〈使用楽器〉

YANAGISAWA T-WO20 PGP



田中 靖人

(バリトン・サクソフォン)

Yasuto TANAKA, Baritone Sax

国立音楽大学卒業、矢部賞受賞。在学中に第1回日本管打楽器コンクール2位、第4回同コンクール1位受賞。CDは「管楽器ソロ名曲集」(日本コロムビア)の他、「ラブソディ」、「サクソフォビア」(東芝EMI)、「ガーシュイン・カクテル」(成成出版社)、「モリコーネ・バラダイス」(EMI)をリリース。

03年和歌山県より「きのくに芸術新人賞」受賞。現在、愛知県立芸大、昭和音楽大学、国立音楽大学各講師、札幌大谷大学客員教授、東京佼成ウインドオーケストラのコンサートマスター。

〈使用楽器〉

ヤマハYAMAHA YBS-62 II

Trouvère Quartet, Saxophone Quartet

トルヴェール・クワルテット



with 小柳美奈子 (ピアノ)



小柳 美奈子 (ピアノ) Minako Koyanagi, Piano

東京藝術大学卒業。伴奏のイメージを変えてしまうアンサンブル・ピアニスト。様々な奏者の呼吸の機微を読み取り、寄り添うしなやかな感性を数多くの公演や録音で発揮。

吉松隆「サイバーバード協奏曲」の準ソリストとしてフィルハーモニア管、BBCフィル他多くの楽団と共演。打楽器の山口多嘉子とのデュオ「パ・ドゥ・シャ」で、吉松隆の作品を収めたCDを発表。須川展也、トルヴェールQの共演者としてのキャリアも長く、多くの録音に参加。トリオ「YaS-375」メンバー。ピアノを安川加寿子、梅谷進、奏はるひ、今井正代、長谷川玲子、本村久子に師事。



1987年に須川展也・彦坂眞一郎・新井靖志・田中靖人の4人で結成。2017年には結成30周年を迎えた、世界トップレベルのサクソフォン四重奏団。92年東京国際音楽コンクール第2位、第5回日本吹奏楽アカデミー賞「演奏部門」受賞。98年にはTV朝日「徹子の部屋」への出演を機にその存在を広く一般にも知られるようになる。2000年にはオランダでの日蘭国交修好400年記念演奏会に招かれ各地で絶賛を浴びた。

2001年発売のCD「マルセル・ミュールに捧ぐ」は、第56回文化庁芸術祭レコード部門で大賞という快挙を遂げた。EMI他から多数CDがリリースされている。2017年2月に30周年記念CD「ティプシー・チューン」を発売(イマジネベストコレクション)。

「個性と融合」をコンセプトに、コンサートではサクソフォンのためのクラシカルな作品から、トルヴェールならではのオリジナル編曲作品までを展開。結成間もない頃よりピアニストの小柳美奈子も参加し、ボーダレスな活動内容が幅広い層に圧倒的な支持を得続けている。その音楽性と驚異的なテクニクによる緊密なアンサンブルが、世界最高峰のサクソフォン・クワルテットとしての評価を揺るぎないものとしている。